

館蔵品展 **長崎家の藤細工** —松江でつづく丁寧な仕事—

【会期】 2025年7月18日(金)～9月15日(月・祝)

【会場】 松江歴史館 企画展示室

松江藩の藤細工は、文政期(1818～1829)頃にはすでに下級武士が内職として煙管入を製作していたと伝えられています。現代に藤細工の技法を伝える長崎家の藤細工は、江戸時代末期、松江藩の料理方であった長崎仲蔵が、江戸の松江藩下屋敷で藤細工を作ったことが始まりとされています。2代福太郎が長崎家の秘伝の技とされる六弁の花模様が並んだ編み方「花結び」を考案するなど、各代で時代に合わせた藤細工を多く作り続けてきました。

松江藩に伝わる藤細工の技術は、6代長崎誠氏が「松江藩藤細工」として平成16年(2004)3月31日に島根県ふるさと工芸品の指定を受け、さらに長崎誠氏の弟子である8代川口淳平氏は令和6年(2024)に「松江藩藤細工」として鳥取県伝統工芸士に認定され、現代にもその技を伝えています。本展は、初代長崎仲蔵から現在活躍する長崎誠氏、角宏子氏、川口淳平氏らの作品を展示し、江戸時代から松江で作られ続けてきた藤細工の一端をご紹介します。



3代 森山千代市作

《花結編籠信玄》(当館蔵)



初代 長崎仲蔵作

《極細一楽編煙管入》(当館蔵)



2代 長崎福太郎作

《石畳編炭斗》(当館蔵)

みどころ

①長崎家初代から6代・長崎誠まで
歴代の作品が一堂に会する！

松江の伝統工芸である松江藩藤細工。江戸時代末期の初代から6代・長崎誠まで歴代の技を間近に見ただけです。

②松江歴史館所蔵の藤細工、
一挙公開！

約30年前に松江市に寄贈いただいた80点に及ぶ松江藩藤細工を一挙にご覧いただけるまたとない機会です。

③松江藩藤細工の次世代、
「6代の弟子たち」の作品も！

長崎誠の弟子で、これからの松江藩藤細工を支える角宏子・川口淳平・藤田真理・山野孝弘らの作品も紹介。

松江で150年続けられてきた丁寧な手仕事。
長い年月の中で人々の暮らしも時代とともに変わっていきます。
各代の籐細工からは、そんな移り変わる時代も感じられます。



①

① 4代 森山誠一作「弦付色違一楽編果物籠」(当館蔵)

② 5代 長崎藤吉作「土瓶敷 大中小」(当館蔵)

③ 6代 長崎誠作「花結編クラッチバッグ」(当館蔵)



②



③

会期中には、イベントも開催予定です。
くわしくは松江歴史館ホームページにて
随時お知らせいたします。

6代 長崎誠氏



【開館時間】9:00~17:00(展示室への入場は16:30まで)

【休館日】毎週月曜日、祝日は開館し翌平日が休館。ただし8月12日(火)は開館。

【主催】松江歴史館(ホームページ:<https://matsu-reki.jp/>)

【問い合わせ】〒690-0887 島根県松江市殿町279番地

TEL:0852-32-1607(代表) 0852-55-5511(学芸直通)

FAX:0852-32-1611 E-mail:rekishi@city.matsue.lg.jp

展示担当:大多和(おおたわ)、的野(まとの) 広報画像提供等担当:藤岡(ふじおか)、安部(あべ)